

## 第2回 懇談会の概要

第2回四国21世紀の道ビジョン推進懇談会が18日(木)高松市内で開催された。

今回は四国地方幹線道路協議会が策定に向けて検討を進めている「四国道ビジョン推進プログラム2003-2007」(仮称)15年度に実施した有料道路社会実験結果と新年度に取り組むべき施策・事業について、懇談会委員からご意見を頂いた。

### 『主な意見』

#### - 「道ビジョン推進プログラム2003-2007」(仮称)について -

##### 資料の見せ方に係わる意見について

- ・ 概念図やイメージ図などを、もっとわかりやすいもの、見やすいものにするよう工夫して欲しい。
- ・ これは、これからの取り組みに対する決意表明であり、今までの道路行政になかった姿勢。是非公表してほしい。そうすることによって、地域からの協力・理解が得られる。
- ・ 概要版にするなどもっとコンパクトなものがあるといい。
- ・ 住民から見れば、それぞれの事業によって、まちがどのように変わるのかが重要。これをもとにさらに事業をブレイクダウンして、今よりもシンプルにまとめてほしい。

##### 事業の進め方、成果指標に係わる意見について

- ・ 道路行政の5か年のマネジメントサイクルの考え方は評価したい。
- ・ 何に重点を置き、どのように選んできたか、視点をきちんと書くべき。(事故、渋滞だけでなく電線地中化も)
- ・ 渋滞対策の重点化については、B/Cの議論が抜けている。コストが安価な箇所から実施していくことも明確に書くべき。
- ・ 南海地震対策は将来必ず起きる災害に備えた重要な施策。ここでの整備手法や優先順位の付け方の工夫は大切。
- ・ 地域主体の地域づくりのための道づくりへの支援の補足をすべき。(取り組みの視点、どうしたら支援してもらえるかなど)
- ・ 人と人との関わりのプロセスやシステムを示すと分かりやすい。(例 地域主体の道づくり)
- ・ 皆が興味を持っているような分かりやすい効果で示せばいいのでは。
- ・ 歩道の整備延長ではなく、安心感を表す具体的な指標があればいいが。

## - 四国の広域交流拡大に向けた有料社会実験について -

- ・ 実験は大変意義があり、今後の一つの方向付けができた。評価したい。
- ・ 経済効果は、JH、消費者等それぞれの立場や様々な視点から測定しなければ評価できない。
- ・ 経済効果を一つの視点からとらえて示していないのが少々不満。いいところ取りをしているだけでは。
- ・ 供給者余剰に対する消費者余剰は厳密に整理すべき。
- ・ 四国へ人を呼び寄せたという効果は出ている。また、実験チケットを使って、人が動き、その方が四国内で消費し、プラスの相乗効果を得たのは事実。
- ・ 本四架橋も取り込んだ取り組みは今後の課題。
- ・ 交通量の多い市街地部の一般道にも十分効果があったのでは。そこら辺の効果分析をすれば、いい成果がでるのでは。
- ・ 単なる経済効果では推し量れない、四国の価値に気づいてもらえる付随的な効果もある。
- ・ イベント案内や優待施設案内も兼ねた社会実験チケットのPRをしていただきたい。
- ・ 観光イベントとセットにした割引チケットの販売など、多面的で継続的な取り組みとしていただきたい。
- ・ 適正料金を設定するには分析が足りない。
- ・ 実験の継続性と豊富なデータが必要。四国だからこそ面白い分析ができるだろう。

## - お部屋で見られる四国の道路事業のフォローアップについて -

- ・ 見やすい工事看板の設置は見やすくていい。ただ、いつまで工事があるのか？という情報をいれてもらえるとありがたい。
- ・ 誰に対して理解を求めているのか、目的にあった情報開示の仕方があると思う。
- ・ 関係市町村のHPでも開示してみても。市町村事業もあるとなお良い。
- ・ 地図とかのデザインは見づらい。地元には詳しくないと分からない。
- ・ 事業の進捗度に合わせて、道路を色分けするなど、目的にあったデザインの工夫が必要。公表している目的が分かりづらい。
- ・ 確実な情報を載せ、かつ、リアルタイムで更新していくことが重要。